



愛隣幼稚園

園だより

20. 7月

“密”になりたい

幼稚園がやっと始まって、先週木曜日、ついに大きい組の名前が決まりました。既にご存知のこととは思いますが・・・今年の年長組は『てんとうむし』になりました！ひかり先生によるとばら組の終わりに「大きい組になったら何組になる？」と相談を始めてから、実に101日が経過していたそうです。思わぬことで思わぬ時間がかかりました。でも、長い時間をかけてみんなで丁寧に考えるという経験もまた、得難い経験であったと思います。愛隣史上（おそらく）初めて、子どもたち一人一人にお休み中の宿題としてワークブックが手渡されたり、園内のあちらこちらで担任以外の先生（投票権はありません）を掴まえては熱心なプレゼンが繰り広げられたり、支持者を獲得するために手作りのプレゼント（賄賂？）を贈ったり、まさに小市民としての活動を子どもたちはやっていました。（もちろん子どもには賄賂なんて自覚はありませんよ。どうしたら自分と同じ気持ちになってくれるだろうかと考えたら、そうだったというだけの事です。）自分たちのことを自分たちで決める。みんなが参加して決める。決めたことに皆が責任をもち、希求するクラスの姿を実現するためにこれからは皆で力を合わせていく。その様子を見て理事長が“市民教育だね”と言っていました。僅か5歳、6歳の子どもたちにこんなことができるのです。大人たち、大丈夫ですか？子どものすること、などと侮ってはならないのです。子どもたちには小さくとも民主的な社会を創っていく力があるのだと、私たちは知らされます。（このことは写真(6/18更新)・動画(6/24更新)でブログにも掲載しています。是非、ご覧ください。）

さて、幼稚園の始業から間もないというのに、梅雨に入ってしまった。分散登園を継続中の愛隣、本格的な雨降りとなった先週金曜日は年長と年中の登園日でした。こんなにしっかり降ってしまったのは園舎内で“密”を作らないことを考えなければなりません。先生たちは子どもたちの活動場所を、それぞれの保育室とホールに想定して準備しました。保育室にはあそびの続きができるように、ホールには巧技台の準備をしました。登園時間が終わってホールを覗くと・・・それはそれは大賑わいの大盛況（汗）。普段はできないようなチャレンジングな設定に、子どもたちは大喜びで挑戦してはおりませんか。（すみません、こんな事態を招いて・・・）本当ならすぐさま解散、あるいは人数制限・時間制限をして“密”をコントロールすべきだったと思います。しかし、子どもたちの夢中になっている様と先生たちの楽しそうな表情を見てしまったら、それはできませんでした。そうだよな～、子どもって楽しそうなところに集まってくるんだよな～。幼稚園ってそれをしているところなんだよね。「おい、おもしろそうぞ。一緒にいこう！」「うん、一緒にいこう！」「やってみよう！」子どもたちは<楽しいことや嬉しいこと><やってみたらできた！できなかった>いろいろなことを一緒に経験し、気持ちも共有しながら大きくなる。その中で大切な自分、大切なキミであることがわかるようになっていく。だから、ひとり一人を大切に作る保育は“子どもは関わりの中で育つ”ということを大切にしたいと思う。“密”になって関わることも幼児の成長には欠かせないことです。6月の初め、てんとうむし組の部屋に、木製のキューブを積み重ねた大きな山と筒状の塔ができました。ちょっと触れただけであつという間に崩れてしまうものです。でも、その構築物は数日間そのままの状態を保っていました。同じ組の仲間はその構築物に触れないように、崩れないように気遣って歩いていました。ちょっと崩れると、製作者でなくてもそっと直していました。それだけではありません。ばら組の子どもたちもそこにやってきましたが、同じようにこの構築物には触れることはありませんでした。園に関わる方がそれを見て、「子どもたちが経験を共有して共感しているから、大切にするのね。」と仰いました。<そうか！そういうことか！>自分がやってみたこと、知っていること、感じたこと、考えたことそれらと、仲間との関わりの中で育ってきているものがあるから、製作者が誰であるか知らなくても、あるいは知っているからこそ、作った人の思いに共感してその構築物を大切にすることができる。人は関わりの中で生きると言われていますが、子どもは関わりの中で生活し成長していくのだと強く思われました。その後、この構築物は窓から吹き込んだ強い風に煽られて崩れてしまったと、ひかり先生から聞きました。さて7月ですが、新しい生活様式と子どもにふさわしい生活のせめぎ合いは続きます。